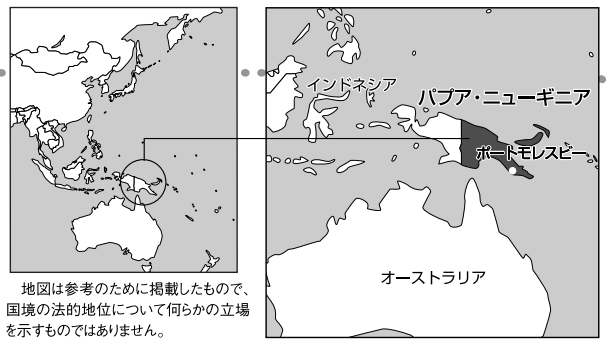


ユニセフ子ども物語

地球に生きる子どものくらし

Papua New Guinea

パプア・ニューギニア独立国



あたりまえの生活を夢見る男の子

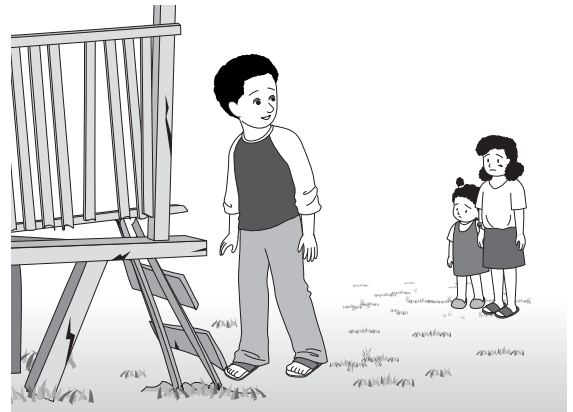
ぼくはジョン(仮名)。パプア・ニューギニアに住んでいます。パプア・ニューギニアは自然がいっぱいのきれいな国ですが、HIV/エイズという病気が広がっていて大きな問題になっています。ぼくはお父さんもお母さんもエイズで亡くなったので、姉妹と一緒におばさんの家に引き取られました。おばさんの家族もゆとりがないので生活はきびしいです。

お父さん、お母さんが生きていた頃は楽しかったけれど、今はさびしくてたまりません。ぼくだけみんなとは別の場所に住んでいるからです。そこはこわれかけた小屋です。三面が壁で、壁のひとつがまったくありません。そこにゴザとクッションをしいて寝ています。雨が降ると寒いので壁がないところにシートを下げているのですが、大雨の時は雨が中まで吹き込んでゴザまでぬれてしまいます。せめて雨の時くらいは、みんながいる家で寝たいと思います。ごはんは2日に一度食べられればいいほうです。学校にも行けないし、近所の子どもたちともめったに遊ばせん。



みんながぼくをさけるのはHIVに感染しているからです。姉や妹は感染していません。みんなはHIVが空気でも感染するものだと思いこんでぼくをさけているのです。そんなことはないのに。病気についての正しい知識があれば、ぼくもこんなさびしい思いをしなくてすむのにとおもいます。

パプア・ニューギニアは山が多くてラジオの電波もうまく届きません。電車もなく車を持てる人も少ない上に、道路もあまりありません。飛行機はありますが、ふつうの人は料金が高すぎて乗れません。だから知識も薬もいきわたらないのです。



ぼくは都会に住んでいるので恵まれている方です。週に1度、病院のカウンセラーのところに行っています。カウンセラーはユニセフの支援を受けて、ぼくたちのようなHIV/エイズの影響をうけている子どもやお母さんたちのケアをしてくれます。悩みを聞いてもらい、食事を食べさせてもらっています。ぼくは、しんせきや村の人たちに冷たくされてもカウンセラーの所に行くと少し希望がわいてきます。ぼくのような子どもたちが少しでも元気になれるように、カウンセラーにもユニセフにもがんばってもらいたいと思います。



<文・構成：(財)日本ユニセフ協会>

物語の国
パプア・ニューギニア

オーストラリアのそば、インドネシアと国境を接するニューギニア島の半ほどを占め、日本の1.2倍ほどの国土に約600万人が住んでいます。美しい自然にあふれ資源も豊富な国ですが、西には高地とジャングル、東には点在する島々があり、交通網が未発達なために必須の基礎サービスなどがなかなか行き届きません。



カウンセリングを受けに来たジョン君（仮名・写真中央）
向かって左は姉、右が妹 ©FUKUSHIMA

子どもを苦しめるHIV/エイズ

子どもを苦しめる偏見や差別

HIV/エイズはアフリカでの重大な問題だとされていますが、アジアの国ぐにでも深刻な問題です。パプア・ニューギニアは800もの言語があるといわれ、さまざまな伝統や習慣があるため知識普及は容易なことではありません。複雑な地形、交通網の未発達などで基礎サービスがなかなか行き届かない状況もあります。

HIV/エイズの知識が少ないために「空気感染する」といった誤解や偏見、まわりの人びとからの差別で子どもは苦しみ、きびしい状況に追い込まれてしまうことがあります。

ジョン君（仮名）も孤独でとてもきびしい生活をしていますが、明るさと思いやりを忘れず、強く生きていこうとしています。



カウンセリング室 ©日本ユニセフ協会



感染予防は重要な取り組み ©日本ユニセフ協会

パプア・ニューギニアの状況

（よりくわしい統計は『世界子供白書2007』をご覧ください）

項目	数字
都市人口の比率（2005年）（％）	13 *人口のほとんどが都市部以外に住んでいる。孤島も多い
1人あたりの国民総所得（2005年）（米ドル）	660（参考/日本は38,980）
5歳未満児の死亡率（2005年） [1,000人あたり・人]	74（参考/日本は4）
成人識字率（最新のデータ）（％）	男63 女51
HIVと共に生きる人（全年齢）の推定数 （2005年）〔人〕	60,000
HIVに感染する危険性がある子どもの数 （最新のデータ）〔人〕	800,000 *国の子ども人口全体の37%にあたる

データは「世界子供白書2007」、現地事務所データによる

HIV/エイズに関する参考資料

- ・T・NET通信34号特集「HIV/エイズから子どもたちを守る」
- ・T・NET通信35号子ども物語「マラウイ：おかあさんがわりは13歳」
- ・ユニセフニュース214号マンガ「パプア・ニューギニアのHIV/エイズ」（余部には限りがあります）
- ・FNSチャリティ・キャンペーンのホームページ：
<http://www.fujitv.co.jp/charity/top.html>（パプア・ニューギニアのHIV/エイズについてのビデオの貸し出しを無料で行っていきます。本数に限りがありますのでご注意ください）

HIV/エイズへの取り組み

HIV/エイズの問題は、部分的な取り組みだけでは解決できません。HIV/エイズに対する「包括的」な支援を「国のレベル」、「地方のレベル」、「村のレベル」で行う努力があって初めて脅威を押さえ込むことができるのです。ユニセフは政府に働きかけながら、「地方のレベル」、「村のレベル」での取り組みを支援するよう努力しています。

▶国のレベル・地方のレベルの活動目標

- ・妊産婦の母子保健ケアの中にHIV検査を入れ、カウンセリングを通して母子感染を防ぐ
- ・病院や保健センターの設置と充実を図る

▶村のレベルの活動目標

- ・学校での感染防止教育や子どもたちによる子どもたちへの啓発活動で「正しい知識」を広めるなど



ユニセフの支援を受けて活動するカウンセラー ©日本ユニセフ協会



Q アフリカのHIV/エイズの課題と大きな違いはありますか？

A：問題は同じです。だからこそ、手を打てば、アフリカでの教訓を生かすことができ、感染の拡大を防ぐことができるのです。「早期」に対策を打つことが大切です。



病院にきている母子 ©日本ユニセフ協会

Q パプア・ニューギニアで感染が拡大する特別な原因は何ですか？

A：伝統的な一夫多妻制が残っているために夫が妻を感染させてしまったり、宗教的な理由や、女性の立場が非常に低い（夫に対して逆らえない）、感染防止策をとれない（コンドームを使用できない）ということが考えられます。

Q 子どもが生まれる時に母親から感染する、母子感染はどのような状況ですか？

- A：推定では感染の9%が母子感染と言われていて大きな問題です。HIV検査をしている女性が少ないことや、他に次のような理由があります。
- ① HIV/エイズに対する「差別・偏見」が怖くて、検査で陽性になると病院に来なくなる場合が多く、カウンセリングを通して「母子感染防止」の対策がとれない。
 - ② 病院や保健センターが都市部に集中しているために、農村部やへき地に住む女性たちは検査などに行くことができない。出産を控えた妊産婦はなおさらむずかしい。また、HIV陽性の母親が出産したあと、母子感染を防ぐための授乳対策（粉ミルクの使用など）がむずかしい。
 - ③ 母子感染を防ぐには、薬と適切な処置が必要だが、自宅出産がほとんどなので、適切な処置を施すことができない

Q エイズの発症は薬で抑えられると言いますが、薬は十分にあるのですか？

A：国際社会からの支援により、エイズ発症を遅らせる薬は2012年まで確保されています。でも、薬は、ずっと飲み続けられる人でないともらえません。中止すると薬が効かなくなるからです。地理が複雑で、交通網も発達しておらず、病院が少ないこの国では治療は困難を極めます。だからこそ「予防」が大切なのです。



提供するための薬 ©日本ユニセフ協会